

## < 発達支援講演会を開催しました >

平成30年8月25日(土)に、札幌コミュニティプラザに於いて、今年も発達支援講演会を開催いたしました。今回は、佐々木浩治先生(足寄町あしよろ子どもセンター長)をお招きし、「進学、就職による自己実現のために～学齢期から大切にしたい支援とは～」というテーマで、障がいを持つ子どもが進学・就職するために、保護者をはじめ支援者、関わる大人がどのように支援し、見守っていかなければならないのかを、具体的な事例を交えて講演していただきました。その講演会の内容をいくつかご紹介します。

### ○本人が納得した進路選択を

進路の選択には、第一に本人の意思の確認が必要になる。どこの高校に行きたいのか、どんな仕事に就きたいのかということを確認しなくてはならない。将来に対してのイメージの共有は難しく、保護者と本人や学校と保護者の間でイメージが一致しないことは多い。進路選択で大切なのは、いかに本人が納得しているか、納得していなければ納得できるように伝え、納得できた上で決定することが大切である。どのようにしてこの子たちが地域で働き、生活していくのかを考えることも大切であり、足寄町では、役場内やバスの待合所などに喫茶店や軽食店を設け、地域の仕事の場を作っている。



### ○自分を知る力、受け入れる力を育てていく

学力以上にメタ認知・生活する力・解決する力を持っていることが大切になる。メタ認知とは、自己認知活動のことを言い、何が自分ででき、何が手助けによってできることなのかを知ることである。本人自身が受け入れられなければ、支援自体を受け入れようとしなくなってしまう。助言を助言と受け止められず、



叱責としかとらえられなくなってしまうのである。また、失敗を失敗として受容できないと、何かのせいにしたり、無かったことにしてしまうこともある。メタ認知は青年期から育てようとしても育たず、学齢期のうちに育てていかなければならないのである。保護者が家庭の中で支援していくことは難しいので、支援者がある場その場で本人が受け入れられるように、丹念に関わっていく必要がある。受け入れる力、自己肯定感を育てていくことを考えなければならない。

### ○受け止めてもらう体験の大切さ

褒めるといのは意外と難しいことで、褒められて喜ぶのは、褒められた経験があり、心理的な安定感があるという証拠。あれこれやってみて最後までやり遂げられる心理的安定を育てる。これができるようになってくることで、次の経験につながっていくのである。誰かに助けを求めたり、相談できるようになるためには、子どもが相談をして上手くいったという体験が大事。相談したことで受け止められたという思いや、成功体験を積み重ねていくのである。また、「わからない」「できない」と言える力を、小さい時から育てていくことも大切なこと。

どれだけ受け止められているのかという安心感をもてるように、見守りが大切。保護者だけが頑張るものではなく、関わる大人、関係者が思いを伝えあって、応援していくチームワークを作り、子どもが自己実現できるようにみんなで受け止めていってほしい。